

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和7年2月10日

事業所名 児童デイサービスと ちいさな木

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	スタッフが工夫して広く使えるようにしているが、遊びの時(雨の日など)にはまだ狭く感じている。	玩具を全て個室に入れず、よりとしたスペースにいたしました。雨の日のプログラムに応じて物の移動をして改善いたします。
	2	職員の配置数は適切である	4	4	曜日によっては多いがあるが足りてないと思う。病欠などの場合は確実に不足している。	配置上は適切な人数となっていますが、病欠の際は子ども木の職員で協力あつたり、事前に予測が立つ時は出勤可能な職員に連絡を取っています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	2	生活空間はわかりやすく言葉の出せない子に対しては絵カードなど使用している。床の安全などを考慮して対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		清掃消毒に注意している。パーテーションを使ったりおもちゃ等を別室にして広く場所を使い、体を動かし遊べるようにしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		新しいことを始める場合、パート職員に詳しく伝えることがないように感じている。	伝える情報量が多く、時間の制約上り伝えきれないことについては情報を絞り伝えやすいように改善していきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	4		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	機会が少ないと感じる	多様な研修のため時間がなかなか取れず申し訳ありません、テーマを持って研修を用意してきましたが、さらに増やしていくます。また職員に要望を聞いていきます。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			
	12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な内容が設定されている	8			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		課題をクリアしたら次の課題に進んでいる	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	8			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			
関係機関や保護者との連携関係	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	1		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			
	22	母子保健や子ども・育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		定期的に幼稚園と関係者会議を開いている。 問題があれば別途話し合いをすることがある。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		移行する小学校で関係者会議を行っている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和7年2月10日

事業所名 児童デイサービスと ちいさな木

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		埼玉北地区基幹相談支援センターの研修を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8		ひまわり幼稚園への訪問の実施及び堰堤での遊び参加	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	3	医療t気ケア部会に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		連絡帳や送迎時に伝えている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	7	1		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7	数年に一度の開催になってしまっている	今年度の3月に開催予定としている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡休制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8		クリスマス会等の行事の時に招待している	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		契約時にマニュアルを配布している。	
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	消防署と消火訓練などを実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のことの状況を確認している	8		てんかん発作等の緊急対応について定期的に確認してほしい。	緊急対応法については療育の室内にありますので、各々それを確認していただきながら、定期的にスタッフで確認せよぞーいキサト
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	以前はいたが、現在は食物アレルギーの利用者はいない	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1	現在身体拘束が必要な利用者はいない	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和7年2月10日

アンケート期間:令和7年1月6日～令和7年2月7日

事業所名:児童デイすぎと ちいさな木

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	9					
	2	職員の配置数や専門性は適切である	8			1		
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8			1	たくさんのおもちゃがあり、子供も楽しめている。自分で身支度ができるようになり、どこに何が置かれているかわかりやすい	今まで玩具はデイルームに置いてありましたが、すべて個室に入れ子供たちはカードで何で遊びたいか選択して要求出来るようにいたしました。また予定は絵カードで示したり、当日の職員や子供たちの顔写真も貼られています。必要に応じて行動をコントロールしたり切り替えが出来るようにカードを設置して配慮しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9				朝掃除をしてくださっているのできれいです	ありがとうございます。毎朝掃除機だけではなく、しっかりと拭き掃除もさせて頂いております。今後も清潔に心地良い環境をこころがけていきます。
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	8			1	子どもや保護者の気持ちを優先してくれるでの良い	ありがとうございます。今後もお子さんの状況や様子をしっかりとお伝えした上でご家族の意向や考えをお聞きしていきたいと考えております。
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			2	とても細かく作成されていて、家族の意見も踏まえた具体的な内容が書かれていてありがたい。	ありがとうございます。今後もしっかりとお子さんの状況把握に努め、ご家族の意見も取り入れながら、発達に応じて具体的な支援方法を示していきたいと思います。「わからない」と答えて下さった方には再度ご説明させていただけたらと思います。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9					
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	9				日々変化していく成長に合わせて支援してもらっています。	ありがとうございます。ルーティンのプログラムの中でも発達に合わせて新しい教材や新しい運動などを取り入れています。また繰り返し繰り返し行うことも大切にしております。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3		2	4	交流する機会があればうれしいし、普段かかわったことがないことを遊んだりすると成長につながるかもしれない。	交流を目的として行っているわけではありませんが、公園に行くとデイの子どもと一般の子どもと自然に遊ぶこともあります。また幸手ひまわり幼稚園の園庭を使わせていただけるようになりましたので、これから交流の形が取れるようにしていきたいと考えております。
適切な	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	9					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	9					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	5	1	1	2	ペアレントトレーニングに参加してみたい。	面談という形で家族支援はさせていただいておりますがペアレントプログラムとしてはまだ出来ていない状況です。ペアレントについては職員が専門の研修を受けていることが前提です。児童発達支援管理者が受講しておりますが、10年近く前までの対応するには難しいと考えております。大変申し訳ありませんが、ペアレントに参加をご希望であれば専門機関がございます。保護者向けペアレントトレーニングで検索してみてください。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	9				これからもアンケートや連絡帳等で色々伝えていけたらいいと思う。	今後も連絡帳にて日ごろの様子をお伝えし、毎月のご家庭アンケートにてご家族からの情報をもとにご家庭やデイすぎと以外でのお子様の様子を把握し、困りごとや悩みごとについては出来るだけ対応させていただきます。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育儿に関する助言等の支援が行われている	9				どんどん言ってくれると助かります	ありがとうございます。私たちもお子様の様子を多面的にキャッチし、助言や面談が必要であればお声をかけさせていただきます。保護者の方も遠慮なく困りごと等ございましたら遠路なくお申し出下さい。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和7年2月10日

アンケート期間:令和7年1月6日～令和7年2月7日

事業所名:児童デイすぎと ちいさな木

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
支援の提供	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	2	1	4	2	昔のようにZOOMでの話し合いがあったらうれしい。他の方の話を聞いてみたい。	ここ数年保護者会が実施されず申し訳ありません。今年度は対面での保護者会を開催予定です。是非とも参加していただければと思っております。対面ではなくzoomでの話し合いについては、参加したいが足を運ぶことが難しい保護者の方のことも今後は考えて参りたいと思
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	9				忙しくてもすぐ対応してくれて難しいと思っても何とかしようと思って考えてくれているのが伝わる。	ありがとうございます。そのように言っていただき私たちの励みになります。今後もこのような保護者の方々のお気持ちに応えべくご家族に寄り添いご支援させていただきます。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	9					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	7	1		1	いちばん星と同じようにLINEで連絡ができると助かる。インスタグラムをよく見るので、いろいろ情報を流してくれるならうれしい。	申し訳ございません。ちいさな木では年少児を対象としていることから職員とご家族とお電話で直接お話をすることを大切にしたいと考えていることとLINEを公の連絡手段とする安全性を鑑みてLINE導入は考えておりません。ご承知のほどよろしくお願ひいたします。
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	9					
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	8			1		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	7			2		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	9				とても楽しみにしていてワクワクしている。本人にとって楽しく安心できる居場所である。嫌がる様子がまったくなくなった。	とても嬉しく思います。お子様が楽しみにして来てくれることは支援者冥利に尽きます。今後もお子様が笑顔で来てくれるよう職員一同お子様の気持ちを考え支援させていただきます。
	23	事業所の支援に満足している	9				安心して預けることができる。	ありがとうございます。今後もご家族にとって安心・安全、適切な支援を目指して職員の向上を目指してまいります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイすぎと いちばん星			
○保護者評価実施期間	2025年1月6日 ~ 2025年2月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2025年1月6日 ~ 2025年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の保持している資格として教員免許・保育士・幼稚園教諭・介護福祉士・精神保健福祉士・認定特定行為業務従事者・柔道整復師等があり、またほとんど5年以上の実務経験のある児童指導員として専門支援体制加算対象者が多い施設となっている。	それぞれの資格で学んできた力をそれぞれの職員にプログラムに生かしてもらっている。例えばリズム運動では保育士にピアノを弾いてもらったり、手遊びや読み聞かせ等対応してもらっている。身体障がい児には介護福祉士や柔道整復師が主に対応している。また教員免許保持者には学習支援なども対応してもらっている。	それぞれの得意分野で活躍してもらうと同時に他のプログラムも担当してもらい出来ることを増やし、職員同士が助け合い良い支援が提供出来るように取り組んでいきたい。
2	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能施設であるため一人の児童の成長を長く見ることが出来、成長の過程を見ていけるためライフステージごとの課題に対応しやすい。そのため放課後デイの子供たちの成長を見ながら、残っている課題に対して幼児期に何をするべきかを検討することが出来る。	幼児期（児童発達支援）においては何に重点を置いて療育していくことが大切であるのか、また同じ幼児期であっても発達に課題のあるお子さんにはそれに加えてどのような療育が必要であるのかを研修等を通じて専門的な知識を元にした支援に努め取り組んでいる。またデイの児童が通っている幼稚園の理事長に来ていただき木と星とで合同研修をしたが保育の中での発達障害児の成長の記録を見ることで幼児期でやっておくべきことそして本当のインクルーシブとは何かを職員全体で考える機会を得たことは特筆に値する。	児童発達支援は身辺自立（トイレや食事）や基本的生活習慣、運動、言葉など療育する内容や範囲が広く、またどれも大切な内容であるため領域ごとにさらに専門的知識を職員全体会で得て共有して実践していきたい。そして職員も療育の世界のみに浸かるのではなく連携の取れている幼稚園に定期的に行き学ぶと研修を受け、常にインクルーシブとは何か、そしてその課題を考えていく意識を持ち続けていきたい。
3	関係機関（市役所・相談支援専門員・幼稚園・保育園・学校など）との連携がとても取れており、一人の児童に対して関係者が共通に認識をもって全体で支える体制が出来ている。また家族支援にも力を入れている。	モニタリング時には必ず相談支援専門員と直接時間をかけて児童の様子を把握し、状況を知つてもらうと同時に関係者会議が必要な時は相談支援専門員に依頼し、話し合いの場を設定してもらっている。また幼稚園と併用利用している児童においてはその児童の幼稚園に向向き、幼稚園の様子を見た上でご家族も一緒に同席の上お互いの成長の様子や課題を話し合っている。さらに毎月ご家庭アンケートをご家族に記入していただき、幼稚園・保育園の様子やご家庭の様子、そして困りごとなどを把握し、特に困りごとや相談事に就いては可能な限り対応し、必要があれば面談をさせていただいている。	左記については継続していくとともに自立支援協議会の研修等に積極的に参加し、地域の課題を把握しながら、社会資源の情報を得て、児童は皆いずれ成年となっていくという意識と視野をもって将来を見越したアドバイス等ご家族に出来るよう取り組んでいきた。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援と放課後等デイサービスとの多機能型施設となっていることもあり、児童発達支援の開始時間（11:00）が他事業所よりも遅く、就労しているまたはしたい親御さんにご不便をおかけしているのではないかと	児童発達支援施設を独立させれば開始時間を早め、就労されているご家族のお子さんの受け入れも可能となるのではないかと思っている。しかし施設の増設にあたっての人材の確保等が課題となっている。	ご不便をおかけしている分、内容については充実させ、満足していただけるようにしていきたいと考えている。 また将来法人として独立させていく方針となることを
2	環境面では雑居ビルの1室を借りての事業であるため、他室で火災などの非常事態が起こった場合や騒音には避難や配慮等が必要となる。またトイレが一つしかなく、混雑することもある。	避難についてはさまざまな児童がいるためスムーズに避難できるわけではないので、他室からの非常事態に気づくのが遅くなった場合に危険である。	引き続き定期的な避難訓練をし、ひとりひとり非常事態時の行動を把握することや防音対策、またトイレについては分散した声掛けと誘導、また将来的にはトイレの改修・増設を考えていく
3	児童発達支援の児童の送迎および添乗、放課後等デイサービスの児童の送迎と添乗についてはドライバーのみならず職員も行っているため人手不足が生じる時間帯があったり、記録等が少ない職員で対応し終了時間を過ぎることが多い	ドライバー専門の短時間パート職員がなかなか確保出来ない。	引き続きドライバー短時間パート職員の確保に努め、また保育ボランティア等を検討していきたい。